組織の主体的な価値創出を促進する社内提案システムの開発

―次世代のナレッジ共有コミュニケーションツール「Peblo」―

1.　背景

近年、働き方の多様化や人材の流動性の高まりを背景に、各個人の知識を組織の知的資産として共有し活用する、ナレッジマネジメントへの注目が高まっている。この取り組みによって、チームメンバー全員の知識レベルの向上や業務効率化、さらにはコミュニケーションコストの低減やチーム文化の醸成といった効果をもたらすことが期待されている。

しかし、チームでのナレッジマネジメントを継続的に実践することは容易ではない。これまでのナレッジマネジメントにおいて主に用いられる事が多いドキュメント管理ツールでは、業務マニュアルや Wiki の記事のように、体裁の整った文書の作成が前提となっていることにより、日常的な情報共有に対する敷居が高く、情報が集まらないことや、蓄積された情報を有効活用するためのルール作りや整理に手間を要するなどの課題があり、組織内の知見が十分に活用されない状況となっている。

このような状況を踏まえ、より効果的なナレッジマネジメントの実現には、より気軽な情報共有と効率的な運用を両立する新たなアプローチが求められている。

2.　目的

本プロジェクトでは、組織の気軽かつ継続的な情報共有を促進し、どんな情報も知的資産として活用できるよう支えるナレッジ管理ツール「Peblo（ペブロ)」を開発し、Web アプリケーションとして提供することを目的とした。

現状、企業では日々の業務から生まれる様々な気づきやアイデアを活かしきれていない課題があり、特に情報共有の手間や継続性の面で多くの組織が困難を抱えている。この課題に対し、URL や画像、メモといった、日常的でより気軽に共有できる形の小さな情報も気軽に投稿・活用できるインターフェースと機能を提供することで、情報共有のハードルを下げ、持続的かつ自発的なチームのナレッジ共有を支援する。さらに、AI による自動タグ付けや類似コンテンツの推薦など、高度な支援機能によって、情報の整理や発見を容易にし、蓄積された知見を新しい価値創造へとつなげやすい環境の構築を目指す。

3.　製品・サービスの内容

Peblo は、チームでの主体的な情報共有を促進し、日々の業務で活用できる知的資産を育てるナレッジ管理ツールである。AI を活用した自動タグ付けや類似コンテンツ推薦により、誰もが簡単に情報を整理・活用できる環境を実現している。具体的には「気軽に投稿できる」「みんなの活動がみえる」「あとから整理できる」の 3 つの特徴があり、各特徴を支える機能を備えている。

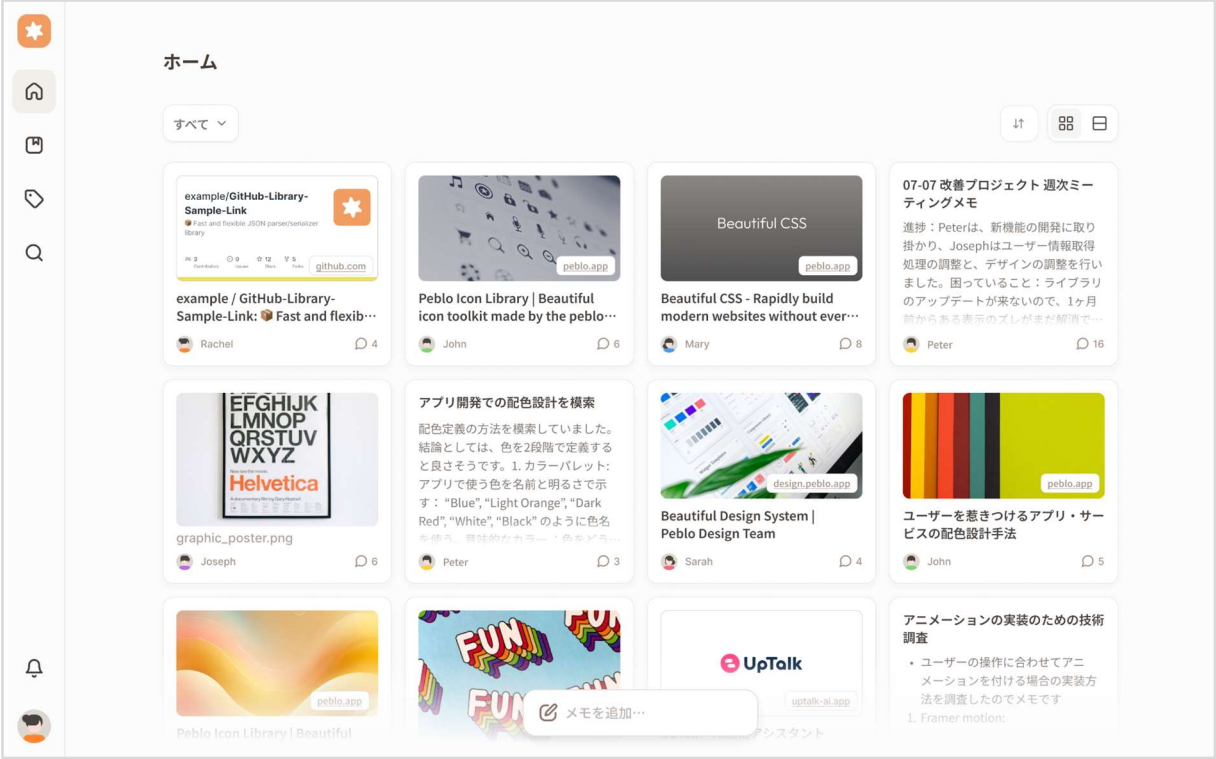

図 1　Peblo のホーム画面

(1) 気軽に投稿できる

ホーム画面下部に常時表示されるシンプルな入力エディタを備えており、チームに共有したい情報を即座に投稿できる（図 1）。また、画像解析技術とリンク先の自動コンテンツ抽出により、説明文がないものでも、後から内容に基づいた検索が可能となっている。これらの機能により、議事録などの正式なドキュメントから、業務中に見つけた参考情報、アイデアのメモまで、あらゆる粒度の情報を組織資産として蓄積できる環境を実現する。

(2) みんなの活動がみえる

投稿された情報は一画面に、お互いの活動を把握しやすい形で表示される。各投稿には、コミュニケーションツールのような手軽なリアクションとコメント機能を備え、反応や会話が自然に生まれる設計となっている。また、複数人でのリアルタイム同時編集にも対応し、共同作業もスムーズに実施できる。これらの機能を通じて、チームメンバー間の存在を感じられる環境を構築し、より活発な情報共有を促進する。

(3) あとから整理できる

自然言語処理技術を活用した自動タグ付け機能により、投稿内容から関連するタグが自動で設定される。これにより、投稿時にタグの設計や付与を意識することな

く、気軽に情報を蓄積できる。また、投稿同士を自由にリンク付けできる機能を備え、情報のネットワーク構造での管理を可能とする。さらに、「コレクション機能」により、複数の投稿を自由に選んでフォルダのように整理することができる。投稿は複数のコレクションに追加でき、全体の情報構造を事前に設計する必要がないため、好きな軸で柔軟に整理できる。コレクションには自動追加機能も備えており、既存の投稿と類似する新規投稿を自動的に追加することで、継続的な情報整理の手間を軽減する。これらの機能により、情報を気軽に投稿しておき、後から自由に整理していける新しい体験を実現する。

4. 新規性・優位性

本プロジェクトの新規性は、業務の中で見つけた小さな気づきや情報も、チームの知的資産として蓄積し活用できる環境を実現することにある。これまでのナレッジマネジメントは、業務マニュアルや Wiki に代表される体系的なドキュメントの作成が中心であった。一方で、実際の業務では、参考になる記事の URL、画面のスクリーンショット、ちょっとしたアイデアのメモなど、より小さな情報が数多く生まれており、これらは新しい発想のきっかけや判断材料として重要な知的資産となりうる。しかし、従来のドキュメント管理ツールではこうした小さな情報を扱いづらく、またコミュニケーションツールでは情報が流れてしまい、後から探しにくいという課題があった。Peblo では、これらの課題を解決するため、細かな情報も即時に共有できるインターフェースと、蓄積された情報を柔軟に活用できる各種機能を提供している。

加えて、これらを支えるために、AI を活用した独自の機能を備えている点も新規性といえる。例えば、情報の整理において、これまでは全体の情報構造を事前に考えた管理が必要であり、手間がかかっていた。そこで Peblo では、AI による自動タグ付けと画像・URL 解析により、誰もが情報構造を気にせず気軽に書き留めておき、後から好きなタイミングで整理できる環境を実現する。

さらに、AI による類似コンテンツの推薦機能により、チームメンバー全員が自然に関連情報を発見でき、より質の高いコラボレーションが生まれやすい環境を提供している。

5. 事業普及（または活用）の見通し

2025 年 1 月に、サービスのランディングページを公開し、プライベート β 版の事前登録受付を開始し、すでに 15 件を超える法人・個人から事前登録を獲得している。現在はプライベート β 版を用いた検証を実施しており、実環境での利用を通してフィードバックの収集を行っている。既存ツールと比較して情報の一覧性の高さや見つけやすさが高く評価されており、今後もユーザーの意見を参考に改善を重ねていく予定である。

今後は、β 版を通してユーザーフィードバックに基づいた機能改善を行い、その

後、本リリースに向けて、訴求方法や料金モデルの検証を実施予定である。

また、既存の情報共有ツールとのデータ連携を強化する施策として、ビジネスチャットツール「Slack」の拡張機能の提供を予定している。現在情報共有を Slack で行っているチームでも円滑に利用を開始できるよう、Slack 上の投稿の自動転記等の機能を提供することで、導入を促進する。

さらに、ナレッジマネジメントは地域を問わず実施されている取り組みであるため、将来的には、国内市場でのシェア拡大にとどまらず、グローバル市場への展開も視野に入れ、カジュアルなナレッジマネジメントツールとしての確立を目指す。

6. 期待される波及効果

Peblo の導入による効果としては、情報共有の敷居を下げ、組織の知的資産の活用方法に新たな可能性をもたらすことが期待される。従来のナレッジマネジメントでは拾いきれなかった、日々の業務における発見やアイデアの種も共有されやすくなることで、新たなイノベーションを生む土壌の醸成につながると考えられる。

また、情報の共有は企業の業務内のみに限るものではなく、研究機関における参考文献の共有、教育現場での学習過程や気づきの記録、クリエイターコミュニティでのインスピレーション共有など、幅広い場面で行われるものである。そのため、Peblo はそれらも含めた多様な人々の知的活動を支えるプラットフォームとして広く展開されていくことが期待できる。

7. イノベータ名（所属）

野崎 智弘（株式会社 Hazumi）

三橋 優希（株式会社 Hazumi/多摩美術大学美術学部情報デザイン学科情報デザインコース）

（参考）関連 URL

● Peblo 公式 Web サイト： https://peblo.app/